



夏季節電まっさかり マルハン都筑店の場合

佐藤マネジャー(左)がスタッフとともに、デマンド監視装置をチェック

「35%削減」へ着実に 高い目標、設備投資でプッシュ

パチンコ産業界の夏季節電は2か月の実績を積み重ねて、まだ継続している。8月号で掲載したSAP日野店(サンキョー(株))に続いて、(株)マルハンの都筑店(横浜市)を取材した。(株)マルハンは、業界の中でも先進的に省エネに取り組んできた実績があり、それだけに「前年対比で削減する」難しさもあるが、さらに意欲的に35%減の節電政策を進めていた。

2008年からの「省エネ」すでに実績

(株)マルハンの節電を語るには、その前に業界の先頭に立って取り組んできた「ECO活動」を説明しなければならぬ。2010年の「改正省エネ法」施行を前に、2008年の「省エネモデル4店」の活動からスタートさせた。その後モデル店を8店舗、54店舗と増やし2009年には全店舗に省エネ活動を拡大し、その成果に対して平成22年度地球温暖化防止環境大臣表彰を受けている。2011年7月末時点では2007年比で15・6%の省エネに成功している。この運動を牽引してきた三上秀樹購買部長(執行役員)は「ひとつのポイントは「電力の見える化」でした。これで電力使用のムダをはっきり知ることができたのです」



東京・八重洲の本社で、三上購買部長は「省エネ」と「節電」を熱く語った



午後、お客様は多いが、室温も湿度も快適だ

ホールはやや暗いが蒸し暑さを感じない

270店舗を有する巨大企業のという。デマンド監視装置をいち早く導入し、そのデータにより、実は開店前に電力消費がピークになっていることなどが一目瞭然となった。「長い間、単なる習慣でムダやムラな利用をしてきたわけ、数字を具体的に見ることで、意識が変わっていききました。時間は少しかかりますが、その意識改革は運用改善こそが重要なのです」と三上さんは強調する。

なかで、東電管内は60店舗、そのうち13店舗が500kW以上の大口需要家だ。東北電力管内では40店舗(大口6店舗)が営業している。8月8日、東電管内の大口のひとつマルハン都筑店を取材した。横浜駅から6つ目の横浜線・鴨居駅で降りて、車で10分足らずの郊外型ホールだ。広い敷地に建つ4階建て、2階以上はすべて駐車場。郊外型といっても街中で、この日の午後は曇天なのに猛暑日寸前の34度、むしむしして汗がまとわりつき、気持ちが悪い。

1階の、圧倒される広さのホールに入ると、やはりやや暗いがほぼ満席に近いというのに蒸し暑さを感じない。山崎直樹店長は「ここは契約電力が655kWで557kW以下にしなければなりません。目標の35%削減は簡単ではありませんが、8月に入っても、ほとんどの日、ピーク430kW前後を守っています」と話し、細かく気を配る日々を送っている。

設備投資した上で目標大きく掲げる

ホール5団体の東電管内節電目標が25%以上なのに、(株)マルハン

はなぜ35%削減という大きな数字を掲げたのか。「休業入れて25%削減は、省エネ活動の再徹底で実現可能と判断します。35%にしたのは、それだけの設備投資を実施するからです」と三上購買部長は言う。メイン照明のLEDへの変更で平均1店約700万円、空調室外機の薬品洗浄で1店約30万円、室外機散水システム1店約100万円と7月までにすでに3億3800万円を投資し、今後も含めると4億7300万円の投資規模となる。すべての店に一律にということではなく、3つの設備投資は店ごとに優先順位を付けて実施している。これらの積極策で7月の節電実績は大口13店舗で33%減、全60店舗で32.2%減の数字をマークしている。20%削減が目標になっている東北管内でも33.2%減の高い水準を示している。

従業員の意識は高くお客様も理解がある

都筑店は3つの設備とも完備している、山崎店長は「昨日はたまたま500kWを超えたので自動的に空調室外機の散水システムが稼働しました。20kWは下が

日々の節電データの看板を自信を持って示す山崎店長



ホールの隅々に送風機。自動販売機は消灯中



室外機を冷やすために水を貯めている散水システム



マルハン都筑店 ■ (株)マルハン

住所 神奈川県横浜市都筑区池辺町3757-2
敷地 建築面積6611㎡
遊技機台数 パチンコ680台、パチスロ279台
駐車台数 669 駐輪台数 200

バイト52人)で、7月の輪番休業日には、社員旅行ではなく社員研修で集まっている。「社会的責任を果たそうとする、自立した従業員で助かっている」と山崎店長。三上購買部長も「クリーン

ります」とその効果に助けられている。都筑店は散水に水道水を使っている。SAP日野店のように井戸水使い放題というわけにはいかず、タイムリーに作動するシステムを構築している。室外機の洗浄は7月に入る前にすませた。事務所でデマンド装置など見ながら取材しているとなんだか蒸し暑い。そんな事務所で若いスタッフが打ち合わせをしていたが、あまり気にしている様子もない。ホールの方はむしろ快適な空間になっているだけに「お客様の居心地優先」の気風が徹底しているのだろう。この店は社員が22人(アル

マインド本気プロジェクト(清掃活動)や社会貢献などで訓練されてきているので、チャレンジ精神が出来る」と従業員の取り組みを信頼している。

お客様の反応はどうなのか。ホールを見渡してもそれぞれのスタイルで遊技に集中しているようだ。「お客様は、世の中の流れに理解があります。協力的でありがたいです」と佐藤信秀マネージャーは感謝している。照明を落とし、様々なカットを実行しており、その内容はホール5団体の提案と軌を一にしている。掲げている取り組みは次の通りだ。

- ▽月3回の輪番休業の実施
- ▽LED照明への変更 (経過年数にて対応)
- ▽空調室外機の薬品洗浄実施
- ▽自動販売機の照明を24時間消灯
- ▽電力ピーク時の室外機散水システム導入 (経過年数にて対応)
- ▽エアコンの実温管理を2度上げる
- ▽外壁照明の部分消灯
- ▽ネオン・看板・電光掲示板などの照明の部分消灯
- ▽ホール内の間接照明の部分消灯

運動を長続きさせる そこに焦点を当てて

逼迫警報が出た場合の対応もマニュアルが出来ており、意識高く展開している現状から(株)マルハンとしては、今夏の節電対応については心配していない。むしろ、これからいかにこの運動を長続きさせるかに焦点を当てている。「室温25度以下は寒過ぎで、実際は26〜28度のほうが心地よいと言える。ホールの明るさについてもまだ研究の余地がある。こんなときに例えば、LEDが導入されていても店長がいたずらに点けっ放しにしていれば意味がありません。ホールにとっては店長がカギ。店長が本気になれば必ずスタッフに伝わるものです」と三上購買部長。700

万円のLED導入費用は年10%の電力削減を続ければ3年でクリアできるそうだ。2007年対比2009年度の省エネ実績は7・1%削減、3億円以上の経費節減になったうえ、契約電力自体が9000万円も下がった実績がある。この改革の流れを(株)マルハンがトップさせることはない。

ホールは夜空の下のようなムードだが、そんなに暗くはない



夏季節電7月実績・デマンドデータ速報

▼東京電力管内

デマンドメーカー	H社	T社	O社	合計
対象店舗数	24	12	21	57
2010年7～9月最大デマンド値 (平均kw)	374.1	232	335.5	330.0
2011年7月最大デマンド値 (平均kw)	289.1	185	276.4	262.5
削減率	22.72%	20.26%	17.62%	20.44%

▼東北電力管内

デマンドメーカー	H社	T社	O社	合計
対象店舗数	1	12	17	30
2010年7～9月最大デマンド値 (平均kw)	367.3	279.5	364.8	330.8
2011年7月最大デマンド値 (平均kw)	284	224	314.6	277.3
削減率	22.68%	19.86%	13.76%	16.15%

H社=日遊電機株、T社=日本テクノ株、O社=オムロンアミューズメント

7月の節電速報値 デマンドデータ

東電管内20%超える

57社のピーク時での削減平均

ホール5団体環境実務者会議が8月9日、東京市ヶ谷の遊技会館で開かれ、日遊協から夏季節電の7月速報値(表)が発表された。

速報値は、デマンド監視装置のメーカー3社がパチンコホール87社の電力使用を調査したもので、昨年7～9月の最大デマンド値(ピーク時電力)の平均と今年7月の

最大デマンド値を比較している。休業と合わせ**35%以上**

ホール5団体は今夏の節電に關し、東京電力管内では25%以上(節電10%以上、輪番休業15%)の削減、東北電力管内では20%以上(節電10%以上、輪番休業10%)の削減をノルマとしている。速報によると東京電力管内57社で、日置電機株の調査が22%減、日本テクノ(株)20%減、オムロンアミューズメント(株)が17%減を超え、目標の10%以上を大きくクリアしており、平均して20%超えて大口需要家対象の15%削減も超えている。輪番休業をいれれば35%の削減になり、「25%以上」の目標を上回っている。

東北管内も16%以上

東北電力管内でも、H社22%、T社19%、O社13%以上と3社の調査ともノルマをクリアしている。政府の要求では、ピーク時電力の削減は平日を対象としている。土曜、日曜は休日電力消費が少

ないことを前提にしている。今回の各メーカーの調査では、土、日が含まれている。パチンコ業界ではむしろ土、日に電力消費がピークになるケースが多いと考えられるので、平日だけを対象とした場合、電力消費は今回の調査よりさらに少なくなると考えられる。

ホール5団体としてはさらに細かくチェックするために、各団体でデマンド監視装置がありデータを提供できるホールを集め、トータルして節電実績を調査することになった。全日遊連はこのデマンド値だけでなく、請求書による昨年との比較を集計すると報告した。

関電管内でも10%削減

経済産業省が新たに節電要請

パチンコ・パチスロ産業21世紀会(代表・原田實全日遊連理事長)は8月8日、「西日本の節電に関する協力依頼について」と題する依頼文を、日遊協はじめ14構成団体に発信した。これは、経済産業省が関西電力をはじめ西日本の電力会社に節電を要請するにあたって政府関係機関等に協力を依頼し、これを受けて警察庁が保安課長名で21世紀会に同趣旨の依頼を発した

もの。経済産業省は「関西電力管内においては、全体として▲10%以上を別途にお願いすることになり、また、その他の西日本の電力会社の管内においても、国民生活及び経済活動に支障を生じない範囲での節電をお願いすることになりました」と協力依頼をしている。

9月2隊、10月も2隊

日遊協、ボランティア隊再開

東日本大震災被災地の復興のため、日遊協が行っているボランティア隊の派遣は、8月は小休止していたが9月から再スタートし、各支部から9月2隊、10月2隊が派遣されることになった。訪問地はいずれも宮城県・石巻市の予定だ。
▽9月14～16日 北海道支部5名
▽9月20～22日 東京都・関東支部8名
▽10月12～14日 中国・四国支部6名
▽10月17～20日 近畿支部8名

日遊協は、4月中旬以降7月上旬までに、宮城県石巻市に支部単位のボランティア隊が計13回派遣され、廃材・瓦礫等の撤去、清掃、炊き出しなどの活動を行った。参加人員(会員企業のみ)は延べ121人に上っている。